みんなで育てよう、緑豊かな私たちの森！子ども達に贈る自然いっぱいの森

能ヶ谷西緑地だより

2023年 11月 1 日号 284号　能ヶ谷西緑地・樹の会

【11月の予定】

◆11月11日　（ 土 ）　（ 雨天翌日）
　・花広場整備
◆11月25日　（ 土 ）　（ 雨天翌日 ）
　・マンション下草刈り
　＊ 9:00　現地集合　（ 9：00～ 11：30）
◆11月4日　（ 土 ）　（10：00～12：00）
　・ヤママユ連・手作りカフェー
　平和台集会所

問合せ ： 伊藤　（735-8623）
どなたでも参加自由です。
作業には汚れても良い服装でおいでください。

【緑地に咲く】キンモクセイ（金木犀）

モクセイ科モクセイ属の常緑小高木。秋に橙黄色の花を咲かせて甘い香りを放ち、ジンチョウゲ、クチナシと並び日本三大芳香木に数えられています。花は薬用にもなります。

小さな花をつけることから「謙遜」「謙虚」、どこにいても香りがわかることから「真実」などの花言葉があります。

（長谷部）

※※※※※※　**緑地だより**　※※※※※※

10月14日（土）　晴　参加者10名

ついこの間までの猛暑が終り、爽やかな秋晴れとなり作業もやりやすい。今日は枯れてしまった大木を、3本切り倒した。1本は南斜面に近い所。その下にエビネランが生えているので、枯枝が落ちてつぶさないように処理をした。あと2本は花広場斜面。そのうちの1本は、ミズキ。花広場の下の中央広場まで大きく枝が垂れ、休憩中に見上げながら「いい花ね」と話したのは、9月に亡くなられたHさんとの思い出のひとつ。あぁ、残念！　この3本はＩさんが電動のこぎりで切り倒し、太い枝も切ってくれた。大変な作業、ご苦労様でした。

もう1つの作業はナラ枯れ対策で、昨年幹の周りに巻いたビニールを取り外すこと。どれだけのカシナガキクイムシをやっつけられただろうか。ナラ枯れは日本の森林の一大事!!　地道な取り組みの効果はすぐには分からないが、来春の新芽を期待したい。

作業後相談の結果、樹の会の副代表がUさんに、会計がMさんに変わることになった。

（宮﨑）

10月28日（土）　晴れ　参加者9名

ここのところ秋晴れが続き、今日も過ごしやすい気候で作業には最適でした。緑地に来る途中、鶴二小学校の運動会の歓声が聞こえ、小学校とは無縁の年になりましたが昔を思い出し気分はわくわくします。秋真っ盛りの土曜の朝は心軽やかです。

今日はみんなで花広場の整備を行いました。雑草を取り除き、土を耕し、たい肥をすきこみ、畑を整備。耕した所にひまわり、コスモス、紅花、エンドウなど次に何を植えるか話題に上がりました、次回作業時に植えることになります。花広場の擁壁沿いに植えたムベが実を沢山つけており、もうすぐ紫色になりそうです。実を傷つけないように、ムベの剪定も行いました。広場中央にある柿の木は渋柿ですがたわわに実をつけ、また台湾ホトトギスが清楚な花をつけていました。

（藤井）

タイワンホトトギス

【緑地の樹】

キンモクセイ（金木犀）

モクセイ科モクセイ属の常緑小高木

今年はどう考えても、季節が変です。例年秋になると律儀に金木犀が香り始めます。それは大体10月1日、少し早い年でも9月の末頃です。今年もそろそろかなあ･･･と待っていたのに、いっこうに香ってきません、蕾もありません。夏が暑すぎたから、だめになったのかしらと諦めかけた頃、2週間以上遅れて庭先に香りが漂ってきた時のうれしさ！自然はそんなやわではないと改めて感じました。

緑地でも、公園側から入ったところの右側に、満開に咲きました。

それにしても、咲き始めると、どの木も一斉に咲くのですね。暑い夏で疲れたからもう少し休んでゆっくり咲くわ、なんていう怠け者の木はありません。だれかが指揮棒を振って、木々に指示を与えているような。

これは、キンモクセイの木がどれもクローンで、同じ遺伝子を持っているからです。キンモクセイは雌雄異株ですが、日本には雄の木しかないそうです。

つまり、種ができずに挿し木などで増やしているから、どの木も同じ遺伝子、そして環境が同じなら、咲く時期も同じというわけなのですね。

（小川）

【やままゆ連・手作りカフェー】

真綿の糸による紙箱織り

10月7日（土）　10：00～12：00　平和台集会所

一週間前の暑さが嘘のように朝晩急に涼しくなり、やっと秋を感じられるようになりました。　これからは手仕事の楽しい季節です。

今回はいよいよ紙箱を使って織りの作業です。　前回真綿を紡いだ糸を緯糸（よこいと）に、経糸（たていと）は思い思いの色の毛糸です。経糸を掬い、緯糸を通す単純な動作の繰り返しですが、作業中は皆、手先に集中し、おしゃべりもなく静かな時の流れの中、織られていきました。

0さんがあらかじめウコン、生アイ等で染めておいてくださった色糸を織り込みながら仕上げました。

やわらかな風合いのやさしい作品ができあがりました。未完成の方のできあがりが次回のお楽しみとなりました。

やままゆカフェ：手作り三色おはぎ

（斎藤泰子）

スピンドルと織物

紙箱織機

【緑地を楽しむ本】

『木はおどろきでいっぱい』

ニコラ・デイビス文　ローナ・スコビー絵　桑田健訳　　高部圭司　監修

化学同人

西緑地には木が沢山ある。何の木がそれぞれ何本くらいあるのだろう。

細かなことはともかく私たちは木を見るとホッとする。

でも、木はそんなことでは済まない、大きな大きなものを私たちに与えてくれている。

この本は、まずその大きさに圧倒される。縦35cm、横29cm、重さ1kgもあるのだから。そして、どのページもたくさんの木や、それにまつわる昆虫、鳥、哺乳類などであふれている、色彩が美しいとても楽しい本だ。自分が本の中に入ったかのような錯覚を覚える。

地球の（陸地の？）１/3は木でおおわれているという。木は私たちに空気や水や、家を建てるための木材や、食べるための果物などを与えてくれる。

木は1本1本が一つの世界を作り、様々な動物にすみかや食べ物を提供している。

木の有様や種の作り方、色々な動物との関係、木と木の関係など、面白いことがいっぱい詰まっている。そして森を破壊するとどんなことが起こるのかも。

西緑地の貴重さを改めて教えてくれる本だ。

（齋藤好子）

鶴2小で緑地を紹介しました。

10月3日（火）の午後、鶴川第2小学校4年生の子どもたちに緑地の紹介をしました。緑地からは参加者5名ほど。緑地活動の目的、自然を基本に、あまり手をかけすぎない、でも適度に管理して本来そこにあった草が気持ち良く伸びてくれるようにしているというはなしをしました。また、子ども達には緑地に遊びに来て欲しい、でも、自然なので危険もあるという注意も。マムシやスズメバチに遭ったらどうするか、など。

子ども達からも活発な質問がありました。「大変だと思ったことは何ですか？」という質問に「全くありません、緑地活動は楽しいです。」参加した緑地のメンバーは、やっていて元気がもらえるという感想を述べていました。

◆ 緑地内は自然緑地として保全をしています。
怪我しないよう十分に気をつけて楽しんでください。

◆ ご意見がありましたらnishiryokuchi@gmail.com まで

「緑地だより」編集：小川

「能ヶ谷西緑地・樹の会」のHP（毎月末に更新）

http://home.a03.itscom.net/ryokuchi/

配信希望の方は、nishiryokuchi@gmail.com まで